

令和2年度 富山市高齢者総合福祉プラン地域懇談会 議事録  
(8月19日(水) 富山市役所分)

1 日 時 令和2年8月19日(水) 午後2時～午後3時15分

2 場 所 富山市役所8階 大会議室

3 参加者

【市民等】27名

【事務局】高畠福祉保健部次長、宮崎福祉保健部参事(保健所保健予防課長)、横山保健所地域健康課長、片山介護保険課長、土地長寿福祉課長

4 内 容

- (1) 次長あいさつ
- (2) 出席者紹介
- (3) 議 事

5 質疑応答

市民等

今回の資料に新型コロナウイルスの関係についての記載がない。コロナの影響により計画の基本理念として掲げていることがことごとくできない状況にある。現在は、3密を避けなければいけない、ソーシャルディスタンスを保たなければいけない、高齢者は感染すると重症化するので自粛しなければいけないといった状況にある。

想定外のことはあると思うが、今後もコロナ以外の感染症が発生する可能性はあり、3年間の計画を立てるにあたり、感染症に対応した考え方や備え、仕組みづくり、予算を含めて検討しなければ、絵に描いた餅になってしまうのではないか。

4月の第1波の際には、デイサービスがストップし、ケアマネジャーは30分以内に帰ってしまうような状況だった。思いつきではあるが、例えば、感染予防のためにこのような職種の方にはPCR検査を受けさせるなどの対応をとればよいのではないかと思った。

事務局

スライドでも示したとおり、国では感染症対策について次期計画に記載を充実するように指示している。富山市でも計画に記載したいと考えている。

第1波のときは手探り状態であったが、今は患者が増加傾向にあるものの、第1波のときよりは感染症に対するノウハウがあり、対応できていると思う。現場からの問い合わせ内容を集めながら、対策を検討していかなければいけないと考えている。

現在、コロナについてはまったく先が読めない状況であり、次期計画はコロナが落ち着いた状況を想定して作成するのか、こういった状況が続くことを想定して作成するのか、考えていなければならぬと思っている。ただし、コロナの影響を考慮して目標設定をすることは、実績がないので難しいと思う。

事務局

訪問系サービスを担っていただいている事業者にはご苦勞をおかけし、事業経営も深刻な影響を受けていると聞いている。

今後事業者アンケートを実施する予定であり、アンケートにコロナウイルス感染拡大に伴い、どのような影響があったかについての記載欄を設け、意見を集約していく予定である。その意見を集約し、富山市としての感染症に対する事業の進め方や予算、対策を検討していきたい。

事務局

コロナウイルスに感染する条件が少しずつ分かってきている。例えば、集団で長時間一緒に生活や食事をする場合に、感染するリスクが高まることが分かってきた。

第1波の状況とは異なり、PCR 検査も充実してきている。ただし、感染リスクのある職業の方をすべて検査することは難しい。

市民等

災害に関することについて聞きたい。要介護者が健康な人と同じ場所に避難することについて市ではどのように考えているのか。

事務局

富山市では、避難計画を始めとした水防・河川対策は建設部を中心に行っているが、福祉保健部を含めた横断的な協議組織を立ち上げ、事業者への避難計画の策定の呼びかけや支援、状況確認を行っている。

最近、国から要援護者名簿に登録するイメージで、施設入所者や高齢者の個別の避難計画を作成するよう方針が示された。この通知については介護保険課より事業者へ案内する予定である。

次期計画においても記載するよう国から指示があるため、防災・水防・河川管理について全庁的に連携して対応していきたい。

市民等

今災害が起きると、認知症の方は避難場所でみんなと過ごさなければならないだろうし、寝たきりの方が床の上で寝なければならないと思う。福祉部局も含めて検討して欲しい。

市民等

要援護者名簿に登録しているというが、災害が起きた際に誰が救助を求めている人か分からない。プライバシーの関係かもしれないが、情報が全くない。

富山市全体については資料に記載があるが、実際は地区ごとに災害を含めて状況に違いがある。私の地区では、買い物の問題についての相談を受けることが多い。地区ごとに具体的な施策を示すことはできないか。

事務局

要援護者名簿の登録には防災対策課から郵送等で呼びかけをし、依頼している。ただし、プライバシーの関係から登録内容については、ご本人が OK している内容しか開示していない。プライバシーの関係はあるが、地域で登録していない方がおられれば、ぜひ声掛けして登録を呼びかけてほしい。

地区ごとに状況が異なっているということをご指摘のとおりである。田舎では周りの状況をみんなが知っているが、中心部ではアパートが多く、誰が住んでいるかわからないといった問題がある。地区ごとに問題は異なっており、地区ごとに施策を講じることは必要だと思うが、難しいところである。買い物支援については、新庄地区でアルビスが実施しており、今後も増やしたいと聞いている。買い物支援を含め、ニーズに応じて対応できればと思う。今回いただいた意見を参考に検討していきたい。

市民等

懇談会の回数が3回ということだが、少ないと感じた。大事な問題だと思うので、回数を増やしなるべくたくさんの方の声を拾っていただきたい。40、50代の参加もあるべきだと思った。

事務局

コロナ禍において地域懇談会をどのように開催すべきか悩んだ。今回は密を避けるために開催時間、定員、回数を減らしての対応とさせていただいた。次回以降は、開催時間や回数を改めて検討したい。

市民等

資料によると地域包括ケアシステムは中学校区単位で構築していくことを想定している。今回計画を見直すにあたり、各中学校区がどのような状況にあるのか、この校区ではこれが足りないなどチェック機能を働かせているのか。

事務局

富山市では地域包括支援センターが中心となって地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる。地域包括支援センターは32カ所あり、中核市の中でも多い方であり、おおむね中学校区に1つにある。地域包括支援センターが各地域に入っていく、連携してさまざまな事業を実施している。

ご指摘のとおり地域差があると思われる。コロナの対応もさまざまであり、事業を再開する地域もあれば、少数の意見でも感染に不安があれば事業を再開しないという地域もある。

長寿福祉課としては、各地域包括支援センターからの報告を取り入れながら事業を進めている。

(以 上)